

社協 みなみ

■発行日：平成25年9月1日

■発行：社会福祉法人 横浜市南区社会福祉協議会 会長 大津 幸雄

〒232-0024 南区浦舟町3-46 浦舟複合福祉施設8階

Tel.045-260-2510 Fax.045-251-3264

http://www.minami-shakyo.jp

南区社会福祉協議会は、誰もが住みなれた地域で安心して暮らしていくために、ボランティア、福祉・保健関係者や行政の協力を得ながら地域の福祉活動を進め、またその活動を応援する組織です。

活かされています！赤い羽根共同募金

10月1日より赤い羽根共同募金運動が始まります。

共同募金運動は、地域や民間の社会福祉活動を支援する総合的な募金活動で、区民のみなさまから寄せられた募金は、高齢者配食・会食活動、障がい当事者活動、福祉のまちづくり活動、高齢者・子育てサロンなど身近な地域福祉活動を支える貴重な財源となっています。

今回は、共同募金の配分を受け、活動している団体の一部を紹介し、共同募金が地域で活かされている様子をお伝えします。



動物たちと癒しをはこぶ

「人と動物のふれあいクラブ めくめく」



人は動物とのふれあいにより、多くの喜びと明るい気持ちが生れます。「人と動物のふれあいクラブめくめく」は、動物による「心の癒し」をするボランティアグループで、獣医師会や南区福祉保健センター、ボランティアの賛同を得て平成10年から活動しています。

6月28日、めくめくのメンバー17人が浴衣やハッピーで着飾ったパートナーの動物たちと勢揃いしました。場所は大岡の特別養護老人ホーム白朋苑。苑では、この時間を「わんわんクラブ」として動物たちとのふれあいを待つ26人の入居者のみなさんがお待ちかねです。

動物たちをたくさんの手が撫で、触り、くしゃくしゃの笑顔で頼ります。動物たちは行儀よく可愛らしく、心の癒しをふるまいます。



ペットを飼っていたというAさんは87歳。捨て犬を娘さんが拾ってきて20歳まで育てたといいます。今も犬小屋は残り、生前のご主人が羨ましがれるほどの仲だったと、車椅子から犬の背をなでながら、思い出話に目が潤みます。

30分ほどの短いふれあいですが、ピアノで童謡を歌ったりすることで、ペットを休ませる工夫もしています。めくめくは、このような施設訪問活動の他に学校訪問、イベント活動をおこなっています。日常生活の中でペットが家族同然に共存していく中、動物とのふれあいを通じた癒しの力はますます求められていくことでしょう。

またおいで！ 老いも若きも幼きも 交流サロン「カーネーション」

からりと晴れ、肌を感じる風も心地よい日、交流サロン「カーネーション」を訪ねました。

「カーネーション」は、六ツ川地区社会福祉協議会、六ツ川地区連合自治会が中心となり、地域の課題である防災、高齢者の見守りを進め、世代交流を通じて人と人のコミュニケーションを図る目的で、昨年9月に立ち上げたボランティア、子育て中の親子、高齢者の方が参加する三世代交流サロンです。

この日の参加者は、親子22組と高齢世代の方が10人。「ここではお茶を飲みながら楽しく雑談しています。楽しく遊ばせているお母さんや元気に遊ぶ幼子の姿を見てパワーをもらっています。」(高齢の方)
「他の地域活動や行事についても親身に情報提供をしていただけるので、交流の幅が広がります。」(若いお母さん)

食事を通して広がる輪 白菊会

真夏の陽射しの7月14日、東蒔田第二町内会館に20名を超える高齢者のみなさんが集まりました。今日は白菊会の日です。

白菊会は蒔田地区に4つある食事会の一つで年6回開催されています。高齢者の孤立化防止、栄養改善を目的に始まり、活動は30年を超えました。担い手は東蒔田第一、第二、榎町の町内会の民生委員、女性部、福祉部のみなさんです。

おいしい手作りの食事を参加者も担い手も一緒に囲みながら、会話は弾みます。自然に他の町内会の人とも顔見知りになり、外で会っても挨拶をかわし輪が広まります。

担い手のみなさんは「楽しみにしているよ」と声をかけられ

「最近はお母さん方の口コミで参加者が増えています。いかに長く三世代交流の場を続けるか、これからも皆さんの意見を参考に活動していきたい。」と代表の山田英幸さん。

楽しい時間は早いもの。帰る時は「また、おいで！」と声をかけ、「また、来ます」と答えてくれる事を、スタッフは楽しみにしているようです。

毎月第一(火) 10:00～12:00

会場：六ツ川一丁目コミュニティハウス

参加費：100円(お茶代・保険料)



ると、とても嬉しいそうです。「継続していくことが一番。地域の見守りとしても大切な場なので、続けていきたい」と活動への思いを語っていただきました。



「楽しみです」と皆さん笑顔で話されていました。



赤い羽根共同募金は10月1日より始まります。

今年も皆さまのご協力を
よろしくお願いいたします。

共同募金会南区支会(南区社会福祉協議会内)
TEL:260-2510 FAX:251-3264



横のつながりでパワーアップ 南区食事サービス団体連絡会

地域の高齢者を対象とした食事会は、昭和50年頃から、民生委員や婦人部会等で企画運営されました。南区は市内でも早く活動が始まり、食事を提供するだけでなく、高齢者の生きがい、外出促進、さらには見守り活動にもつながり、食事会は高齢者の地域生活支援に欠かせない存在となっています。

「南区食事サービス団体連絡会」には、区内で食事サービス活動をする19団体が所属し、情報交換や食品衛生に関わる研修等を実施しています。また関係機関などと連携して地域の高齢者へ熱中症対策や事故防止などの情報提供もおこなっています。運営費削減や担い手不足の課題がある中、会員のみなさんは横のつながりを強め、工夫をしながら会の活動を続けています。

また、連絡会では、南まつりや南なんデーへの参加、会員の交流を図るための日帰り旅行などもおこなっています。

「ボランティアも一緒に楽しめればいいですね」「大いに参加してほしいと思います」と役員のみなさん。

楽しいひと時を過ごしてもらいたいという会員の皆さんの思いが、活動の推進を支えています。



役員のみなさん

つどいの広場 えの木

4月18日、井土ヶ谷上二町内会館に「親と子のつどいの広場 えの木」が開設されました。子育て支援施設の移転に伴い、利用者からの「近くに親子の居場所を作ってほしい!」との声を受け、井土ヶ谷地区連合町内会が開設・運営しています。スタッフはこれまで子育て支援に携わってきた方々です。

えの木は未就学児を対象としており、1日10数組の利用がありますが、時間内であれば出入りは自由です。利用者からは「2ヶ月の赤ちゃんときょうだい児と一緒に連れてこられるのが魅力」「天気の良い日は公園で遊んでからお弁当をえの木で食べる」といった声が聞かれます。

また、スタッフからは「街で会ったときにも、挨拶ができるようになった。つながりができた」との声が聞かれました。えの木は、スタッフが先輩ママとしてちょっとした悩みを聞いたり、話し相手になったり、母親同士がおしゃべりを楽しんだり、息抜きできるくつろぎの場所です。たくさんの目がある安心感があり、利用者・スタッフともに近所の方が多く、「地域で子どもを育てる」という気持ちを感じられる広場でした。



住所：南区井土ヶ谷上町 18 - 20
井土ヶ谷上二町内会館
TEL：080 - 8889 - 0937
開館時間：月・火・木・金 9:30 ~ 16:00
利用料：100円 / 回
または 500円 / 年間フリーパス

南区社協からのお知らせ

平成24年度 南区社会福祉協議会事業報告



第2期南区地域福祉保健計画（平成22年～27年）は、推進3年目を終え、取組みが一層進みました。なかでも、地区別計画では、子どもや高齢者を対象とした集いの場やサロンの開設が進み、様々な世代が地域活動に関わるようになりました。また、テーマ別計画では、障がい者や家族が地域防災拠点運営委員会や地区社協の協力により防災拠点訓練等へ参加したり、障がい児者の親のグループが障がい理解を深めるための出前講座を地域で実施するなど、部会と地域、団体の連携が進みました。

16地区社協では、2つの推進地区で3年間協働して取組んできた結果、永田みなみ台地区では認知症見守り隊が結成され見守り体制の構築が進みました。また、六ツ川大池地区では携帯電話を利用した支えあい活動“すみれ”が組織化され活動が始まりました。

その他の重点取り組み事項は次のとおりです。

I ▶ 福祉・保健のまちを支える担い手をみんなで育てよう

【担い手育成】

- (1) 人材育成のための研修
- (2) テーマ別、対象別ボランティア講座の開催

II ▶ 身近なまちの福祉保健情報をわかりやすく、みんなに発信しよう

【情報発信】

- (1) 広報紙「社協みなみ」発行やホームページ運営
- (2) 地区社協等が発行する広報紙づくりの支援

III ▶ 身近なまちにつどい、みんなが活動する場を広げよう

【活動の場づくり】

- (1) 子育てサロン等の開設や運営の支援
- (2) 南区福祉保健活動拠点「トモニ」の運営

IV ▶ 身近なまちの支えあい・ネットワークをみんなで創ろう

【ネットワークづくり】

- (1) 地域支えあいネットワークの運営支援
- (2) 地域ケア施設連絡会の開催

V ▶ 身近なまちの生活課題に応えるサービスを充実しよう

【身近なサービスの創造】

- (1) 地区社会福祉協議会の支援
- (2) 南区地域福祉保健計画の推進

VI ▶ 災害時に要援護者をみんなで支えよう

【災害時要援護者支援】

- (1) 災害救援ボランティアネットワーク（サブネット）会議の開催
- (2) 南区障がい児者団体連絡会防災部会等が行う防災訓練等の支援

収支決算概要			（単位：円）		所有財産概要		（単位：円）	
	収入額	支出額	収支差額	基本財産	3,000,000	運用財産	516,264,437	
一般会計経常活動	80,366,775	80,084,923	281,852	流動負債	6,348,503	差引純資産	512,915,934	
特別会計経常活動	18,960,373	18,222,231	738,142					
合計	99,327,148	98,307,154	1,019,994					

第8回レインボーフェスタ☆みなみ

地域住民と社会福祉施設、学校等の地域交流まつり。和太鼓、中華獅子舞、東北地方物産展、模擬店、フリーマーケット、各施設紹介コーナーなど。楽しいひと時をお過ごしください。

【日時】9月28日（土）10:00～14:00

【場所】どんとこい・みなみ、中村地区センター、中村特別支援学校、中村小学校

【問合せ】どんとこい・みなみ 担当：下川原、中根

【電話】264 - 2866 【FAX】264 - 2966

善意銀行寄付者

（H25年4月1日～6月30日）※敬称略、順不同

網島 和久
タウンショップ「富士屋」
手芸ボランティアすずらん
井土ヶ谷下二ちとせ会

明るい社会づくり運動南区協議会
日本キリスト教団時田教会
田代 美登鯉
南区区民謡民舞友の会

編集委員紹介（五十音順）

相澤君夫（福祉関係団体分科会）
池田昭太郎（地区社協分科会）
大八木綾子（福祉施設分科会）
栗田一伸（民生委員児童委員分科会）
末永寿美子（当事者団体分科会）
並木慎一（ボランティア・市民活動団体分科会）



ポラぴ!!

no.19

「ポラぴ!!」のぴは

ピッピッと感じるアンテナ
ピースのぴ
ぴかいちのぴ
Pit inのぴ



それから...

南区ボランティアセンター

南区浦舟町3-46 浦舟複合福祉施設8階

Tel. 260-2531 Fax. 251-3264

◆開館：年末年始をのぞく午前9時～午後5時◆
(日・祝祭日も開館しております)

東日本大震災 被災地訪問

7月10日～11日、横浜市社会福祉協議会ボランティア・市民活動分科会の東日本大震災被災地訪問に南区ボランティア連絡会より3名が参加しました。

仙台到着後、仙台市社会福祉協議会スタッフより復興支援“EGAO(笑顔)せんだい”サポートステーションの活動並びに地域支え合いセンター事業の説明を受けました。

スタッフの「いつかは起きるかも知れない災害』『…かも知れない』に大切なことは日頃からの備えと人間関係。何かが起これば人は集まり共に助け合う事が出来る。」ということばが心に残りました。大切なことは「ふれあい」でしょう。

2日目は荒浜地区、高砂1丁目公園応急仮設住宅を訪問しました。

荒浜地区は瓦礫は撤去されましたが、かつての住宅地になり一面雑草が生え、家は基礎部分が残されているだけ。

1年前にこの地を訪れた人は、「瓦礫がなくなり、だいぶきれいになった」と言っていました。初めて被災地を訪れた自分からみると、「まだまだ復興には時間が必要という現実を目の当たりにした時間でした。

震災被害は“東部道路”が防潮堤の役目を果たしたために、道路内陸側よりも沿岸部に集中したそうです。

仮設住宅では、プライバシーの問題でストレスがたまるので、コミュニケーションを取るように心掛けているそうです。しかし、談話室では元気であっても自室に戻るとついつい気持ちが沈んでしまいがちであること、特に高齢者にこの傾向が多いとのことでした。

自治会長よりこの災害を忘れないでほしい。そして、後世に伝えなければいけない」と一言。

ボランティアとして、これから何ができるのかを考えた2日間でした。

(記：並木)



南区ボランティア連絡会研修会 ～普通救命講習～

6月18日、心肺蘇生法とAED操作を学びました。参加者の多くは受講経験がありました。

他の人がやっているのを見ているときは、「あれが抜けた」「ここが間違っている」とわかるのですが、実際に自分がやると、緊張のためか、抜けや間違いがあり、繰り返し体験することの大切さを実感。

7～8人にひとりの指導者がついてくれたので、質問に丁寧に答えてもらったり、研修会場である南区福祉保健活動拠点のAED設置場所を確認したりと、きめ細やかな対応をしてもらうことができました。

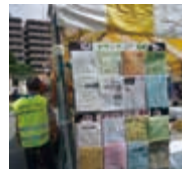


講習修了証

南まつり ～ミニボランティアセンター開設～

今年の南まつりでは、南区ボランティア連絡会、南区災害救援ボランティアネットワーク(以下サブネット)、南区社会福祉協議会が協力して、ミニボランティアセンターを開設しました。

南まつり来場者が車いす、アイマスク、手話、点字の体験ができるように福祉体験コーナーの開催、サブネットの活動PRをはじめ、さまざまなボランティア情報の提供とボランティア相談を受けました。



講座のご案内

ボランティア入門講座

「はじめの一步」をここからスタートしませんか?

- *日 時：11月16日(土) 午前10時～12時
- *場 所：トモニー(南区福祉保健活動拠点)
- *参加費：無料
- *申込・問合：電話で申込

音声訳(録音)ボランティア講座

- *日 時：10月8日(火)～12月10日(火)の毎週火曜日(全10回)
- *場 所：トモニー(南区福祉保健活動拠点)
(南区浦舟町3-46 浦舟複合福祉施設8階) 他
- *参加費：1500円(資料代等)
- *定 員：20名(申込多数の場合は抽選)
- *申込・問合：9月20日までに電話で申込



ボラメイト

南区内で活動するボランティア仲間(メイト)を紹介します

南区ボランティアグループ ピノキオ

代表 長村由紀子

視覚障がい者に身近な情報を音声として提供することを目的に活動しているグループです。

- ★南区を中心とした視覚障がい者に、毎月4本生活情報(60分テープ2本)・小説(90分テープ1本)・エッセイ(60分テープ1本)を発送しています。
- ★希望者には、対面朗読・プライベートの本の音声訳もしています。



ポラぴ掲載内容の問い合わせ・申込みは
南区ボランティアセンター TEL.260-2531